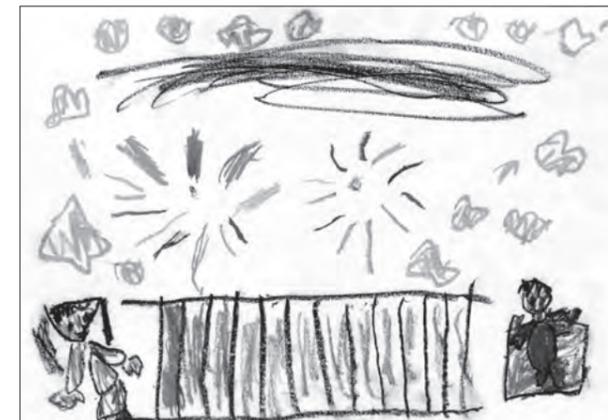


# 保育北九州

令和6年8月1日  
発行 (一社)北九州市保育所連盟  
〒805-0019  
北九州市八幡東区中央2丁目1-1  
(レインボープラザ5F)  
電話 (093)661-2153  
発行人 山本文雄  
編集人 西敏昭

2024 216



ベランダから観る花火  
(5才児の作品)



〈提供 八幡東支部〉

## 家族で海水浴 (5才児の作品)

表紙	1
北九州市長挨拶	2～3
仲間たち	4～5
研修・一期一会	6
支部近況・支部の活動報告	7
雑感・編集後記	8

## 雑感 「保育士の未来を 守るために」

私の母は保育士です。祖母もまた保育士(当時は保母)でした。私はそんな祖母や母の背を見て育ってきました。そんな私は、いったん一般企業に勤務しましたが、やはり血筋なのか保育の世界へと踏み入れることとなり、この4月より施設長に就任することになりました。

外から見ていた保育士像は、子どもが大好きで、大好きな子どもと楽しく仕事をやる職業だと思っていました。しかし、内側に入ってから知った保育士の職務内容は、私の想像をはるかに超えるものでした。子どもたちの養護・教育に始まり、計画の作成、環境の整備、製作の準備、果てには力仕事まで、多岐にわたる業務があります。

日中はめいっばい元気いっばいの子どもたちのお世話をし、その後には書類や製作に取り組み、さらにその合間を縫って、研修などの自己研鑽を欠かさない。保育士は、子どもたちの笑顔の裏で、多くの努力と時間を費やしています。

このような現実を目の当たりにし、保育士の頑張りに対して、あたまが下がる思いでいっばいです。あまりにも想像と異なる現実を直面し、その努力と献身に感謝の念を抱かずにはいられません。

一時期のワイドショーでは、不適切保育問題が頻繁に取り沙汰されてきました。しかし、その背後には、

圧倒的なキャパオーバーで保育士が心身ともに疲弊してしまっている現実があります。保育士が過労やストレスにさらされることなく、子どもたちに質の高い保育を提供できる環境を整えることが急務であると感じています。

そんな全力で頑張っている保育士に対し、私たち施設長ができること。それは、保育士が少しでも働きやすい環境を用意することだと思っています。職員と密にコミュニケーションを図り、従来の慣習にとらわれず、保育士版働き方改革を進めていきたいと考えています。

具体的には、業務の見直しや負担の軽減、柔軟な勤務体制の導入、研修やサポート体制の強化などが挙げられます。保育士が自分のスキルや知識を磨き続けるための環境を提供し、また、心身の健康を保ちながら働けるようにすることが重要です。

保育士は、未来を担う子どもたちの成長を支える重要な職業です。保育士がその職務に専念し、安心して働ける環境を整えることは、私たち施設長の使命です。今後も、保育士が誇りを持って働ける職場づくりを目指して、努力を続けていきたいと思っています。

認定こども園長 浜保育園  
園長 岡村信一郎

## 編集後記 — 「脚下照顧」 —

脚下照顧・・・「きゃっかしようこ」と読みます。禅宗の寺院でよく見かける言葉です。自分の足を照らして顧みるということで、他人に対して理屈や文句を言う前に、しっかりと自分自身を振り返ってみなさいとの意味です。母親から帰ってくる履物はそろえて上がりなさいと言われていた事が思い出されます。

保育北九州も皆様に支えられながら第216号を迎えます。編集会議から始まり、紙面の企画、提案そして原稿依頼、取材、撮影、写真選び等その後は原稿校正、印刷、発行、各支部への配布と紙面になるまで編集委員の先生方には保育現場の責任者としてお忙しい中、編集作業を進めて下さっております。

前編集委員長、日野真人先生が病に倒れられてから、第191号より編集委員長代理として、その後編集委員長としての責務と編集後記の執筆を任せられており、決まった形がないものだけに、何を書いていいか迷いながら、いつも原稿メ切り日を過ぎることが多く、事務局や編集委員の皆様にはご迷惑をかけています。

原稿で悩んでいる時は、故 日野先生の編集後記を紐解いて、読んでい

ると示唆されるところが多く、日常生活の中での何気ない言葉、出来事をわかりやすく書いている事に感銘を受けながら、日野先生が情熱と愛着を持って大切に育ててこられた保育北九州を頼むよと未熟な編集委員長を応援して戴いている気がします。

日野先生が編集委員長としての最後の寄稿2017年、第189号編集後記には、一繩 文 杉「ただの木に過ぎない繩文杉を見て感動できるのは、人の心が価値を作り出しているからだ」と東京新聞に掲載されていた文章を記していました。

日野先生は、最後にわたしも子どもを見る時、ありのまま・そのまますの人間の尊厳を感じていけるような保育者になりたいと締めくくっています。永平寺の開祖、道元禅師も日々の修行の中に「履物を揃える」という行いを通して自分自身を見つめるという事を実践したのです。

デジタル化の進展によって紙面も変化しつつありますが「伝えることの難しさ」を日々実感しながら、編集委員と共に、経験をより一層積み重ね、読み応えのある広報誌を目指して精進致したいと思います。

「保育北九州」編集委員長 西敏昭

# 市長挨拶

## 北九州市長 武内和久



北九州市長の武内和久です。

保育関係者の皆様におかれましては、こどもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担い、日々こどもたちの保育にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

市長就任から1年半。とにかく、北九州市を前に、そして元気にしていきたいという思いで駆けて参りました。まさに転換と挑戦、チェンジとチャレンジの連続でありました。

また、北九州市には、ものすごいポテンシャルがあることを再認識した1年でもありました。今後もこのポテンシャルを大きく形にしていく、それに向けて、先頭に立って旗を振り続け、新しい北九州市に向かって歩みを進めて参ります。

### 【北九州市の歩み】

北九州市にはこれまで、我が国の産業革命、高度経済成長を牽引し、環境先進都市として歩んできた歴史があります。

この道のりを振り返ると、つながりを大切に「人情」と多様性を受入れる「寛容性」、一致団結して困難を乗り越えていく「情熱」、そして、ものづくりや環境分野の優れた「技術」などの都市の特性を持って、直面する様々な課題を克服し、日本や世界に先駆けて環境保全と経済発展の両立を図る、「二歩先の価値観」を体現してきました。

### 【北九州市の羅針盤・新ビジョン】

こうした北九州市が持つDNAやアイデンティティを、しっかりと引き継ぎ、さらに発展させてい

こうと、今年3月、未来へ、市民みんなで進んでいく羅針盤となる新ビジョン「北九州市基本構想・基本計画」を策定いたしました。

### 【目指す都市像と3つの重点戦略】

目指す都市像は、  
「つながりと情熱と技術で、『一歩先の価値観』を体現する  
グローバル挑戦都市・北九州市」  
また、その実現に向けた3つの重点戦略を「稼げるまち」、「彩りあるまち」、「安らぐまち」と定めまして。

### 《稼げるまち》

市民の誰もが望む安全・安心で幸福を実感できるまちづくりに向け、まずは「稼げるまち」の実現に取り組み、都市の経済力を高めていきます。

北九州市が有する様々な魅力を全国に届け、恵まれた陸・海・空のネットワークを活用して北九州市を訪れて、触れていただき、関心を高め、体験していただく取組を強化します。

また、ものづくりの技術を生かした未来産業の集積やスタートアップの創出など、誰もが活躍できる

まちの実現に取り組みます。

### 《彩りあるまち》

「稼げるまち」の実現により、まちに活力やにぎわいが生まれ、多様なライフスタイルへのニーズも高まっていきます。

魅力的な街並みや住環境、教育環境、文化芸術・スポーツに接する環境、観光などのコンテンツを充実させ、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、自分らしさを大切にできる、多様な選択肢がある「彩りあるまち」を実現していきます。

### 《安らぐまち》

「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現による成長の果実によって、生活の基盤である安全・安心な暮らしを確保・充実するとともに、人々がお互いを尊重し、支え合う包摂的で心豊かに暮らすことができる「安らぐまち」の実現につなげていきます。

「安らぐまち」の実現にあたっては、希望する人が安心して出産し、育児やこどもの成長を社会全体で支える「こども・子育ての安心」を感じることができるよう環境を整備してまいります。

### 【成長と幸福の好循環】

このように、都市の経済力を高める「稼げるまち」の実現を起点に、多様な消費ニーズに応え、生活に潤いを与える「彩りあるまち」の実現や、すべての市民の安全・安心な暮らしを支える「安らぐまち」の実現につなげ、まちも人も潤う「成長と幸福の好循環」を創り出し、都市の総合力を高めて参ります。

### 【市民参画による新ビジョン策定】

新ビジョンの策定にあたっては、ミライトーク（タウンミーティング）やアンケートなどを実施し、延べ46,390人、76団体から多くのご意見をいただきました。

市民参画のプロセスを大切に、多くの市民や関係団体の皆様からの声も踏まえながら、新ビジョンを完成させることができました。ご協力いただきました保育団体の皆様に改めて御礼申し上げます。

### 【こどもまんなか社会の実現】

さて、北九州市は昨年11月、全国初となる「こどもまんなかcity宣言」を産学官・地域・若者と共同で行いました。

「こどもまんなか社会」とは、こ

どもの目線に合わせて、こどもの最善を考えるとともに、こどもを社会を構成する存在として尊重することです。こどもと子育て当事者を社会全体で応援するまちを目指します。

また、妊婦さんへ御祝いの気持ちを伝える「きたきゅうマタニティギフト事業」も開始いたしました。

さらに、こどもの送迎ニーズの高まりなどに対応するため、民間企業等と連携した送迎支援の強化や預かり場所の拡大に取組む「シン・子育てファミリーサポート事業」を、今年の秋頃に開始する予定です。

このほか、新たな施策として、今年5月に、初めて、市内18の小学校・中学校・高校と特別支援学校で「みらい政策委員会」を立ち上げました。「みらい政策委員会」では、こどもの意見や提案を市の政策に反映し、事業化に向けて検討する取組を進めてまいります。

また、学校が長期休暇中の保護者を支援するため、放課後児童クラブの朝の受入時間を早めることや、昼食を手配するモデル事業も始めました。

こども・子育て支援政策は、日常生活を営む上で安全・安心をもたらす「安らぐまち」に向けた取組であるとともに、未来へと歩みを進める次世代への大切な投資です。引き続き、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

### 【保育施策の充実】

これまで保育所連盟の皆様には、全国に先駆けた「1歳児 5・1の保育士配置」や「北九州市独自の研修システムの構築」など、北九州市の保育の質の向上に努めていただいております。

また、昨年12月から開始した「第2子以降の保育料無償化」の実施は、経済的な負担の大きい多子世帯の不安を軽減する支援策の一つであると同時に、女性の就業を後押しし、希望する形でのキャリアの継続につながるものと考えています。

さらに、本年4月からは、障害児保育に従事する保育士の負担軽減を図るため、障害児保育事業における保育士加配基準を拡充しました。保育現場における人員配置の強化により、様々な特性があるこ

どもの健やかな成長を支援してまいります。

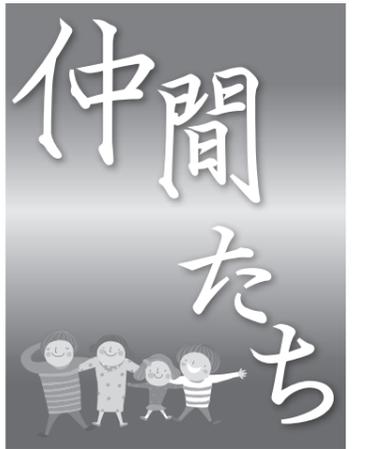
北九州市の次代を担うこどもたちが大切に育まれ、笑顔で暮らせる環境づくりを一層推進するよう、子育てに関わる事業者の皆様と行政が手を携え、そして、地域や企業の皆様とも一緒になって「こどもまんなか」のムーブメントを起こして参りましょう。

### 【最後に】

私たちの北九州市は、ものすごい底力を持っています。まだまだ、こんなものではありません。このまちを築いてきた先人たちのお陰で、優れた技術、熱い情熱、人のつながりがあります。豊かな食も自然も歴史もあります。

未来に向けて、若者やこどもには、世界を夢見て挑戦する力を。毎日の暮らしと人生には、安らぎと彩りを。

老若男女、一緒に力を合わせ、堂々とこどもや孫たちに引き継げる、素晴らしい北九州市を共に創って参りましょう。



今回「北九州市立自然史・歴史博物館」を訪ね普及課の濱田さんにお話を伺いました。

Q1 いのちのたび博物館の運営主体や設立経緯をお聞かせください。



当館は北九州市が運営しています。八幡東区東田地区に「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなる文化エリアを整備するとう「SHINE(シャイン)博物館構想」(平成9年策定)を実現する中で、それまで市内に点在していた自然史博物館、歴史博物館、

考古博物館を統合して「いのちのたび博物館」が誕生しました。

Q2 いのちのたび博物館の事業目的や内容についてお聞かせください。

【事業目的】

「自然と人間のかかわりを考える共生博物館」を理念として掲げています。この理念を実現するため、「博物館の展示に於いて示していく」「教育・普及事業に於いて啓蒙を行う」「資料収集・保存及び研究を進めていく」ということを柱として様々な事業を実施することで、生涯学習施設として皆さんに学習の場を提供できるように努めています。

【事業内容】

「博物館」でやっていることとしてイメージされるもので一番に思いつくのは、いろいろなものが展示されているということかと思いが、その他にもたくさんのことを実施しています。

○特別展・企画展・その他展示事業

学芸員の研究成果を皆様に還元できるように、さまざまな展示を行っています。特別展は年に4回行っており、最新の研究成果を分かりやすく解説しています。

○教育普及事業

博物館を第2の学校として位置づけ、博物館と学校教育現場と連携して、子どもたちが理科・社会科への学習意欲を高めてくれるような様々な事業を実施してい

ます。化石レプリカづくりやペットボトル顕微鏡などの体験プログラム、小学校への出前授業の実施を行っています。その他にも子ども向けの募集型の講座やワークショップの開催など学校向け以外の活動も行っています。

○資料の収集・保存・貸出、学芸員研究業績

博物館の重要な役割として「資料の収集・保存」があります。市民の皆さんから寄贈されたはく製や資料をはじめ、博物館には様々な資料が収蔵庫に保管されています。学芸員はそれらの資料や他の博物館や大学などの機関と連携するなどして、日々自分の専門分野について研究を行っています。そのついで研究成果は、論文や雑誌上で発表されたり、特別展という形で皆さんに見ていただいたりしています。過去には全国ニュースで発表を行ったこともあるんですよ。

○ボランティア組織や友の会の活動事業

当館のボランティアの組織は「シーダー」(種をまく人)の意)といい、来館者の方々に対して、施設案内や展示解説を実施しています。また講座や普及プログラムの補助、子ども向けの折り紙や紙芝居「小倉織」の実演なども行います。来館者の方に「興味の種」を持っていただければと思っ

日々活動しています。また友の会の活動では、野外観察会や史跡見学会、講演会への参加や、研究成果の会誌を作成など、博物館とともに楽しく、自然史、歴史を研究し相互に親睦を深めています。

Q3 開館時間・入場料金・団体利用などについてお聞かせください。

【開館時間】9時～17時(入館は16時30分まで)

【観覧料(常設展)】

大人600円(4800円)  
高・大生360円(2800円)  
小・中学生240円(1900円)  
小学生未満無料

※( )は30名以上の団体料金です。※減免については博物館HPよりご確認ください。

【団体利用】

団体申込が必要になります。博物館HPより団体見学申込書(兼受付確認書)をダウンロードし、博物館へお送りください。  
団体申込 <https://www.knmh.jp/organization-school/>

Q4 業種・職員数や仕事内容についてお聞かせください。

【業種・職員数】

館長、副館長以下、自然史部門の学芸員11名、歴史部門の学芸員8名、事務部門の職員15名の合計36名の職員のほか、受付スタッフなどたくさんの方が博物館で働いています。



【仕事内容】

学芸員は主に、それぞれの専門分野について調査・研究、資料の収集や保存を行います。また特別展を企画し、研究成果を展示したりします。事務部門では、博物館の管理運営、広報、各種講座やワークショップといった教育普及活動も企画・運営しています。

Q5 いのちのたび博物館の施設の特徴があればお聞かせください。

当館は、46億年前の地球誕生から現代に至る自然と人間のいのちの歩みを壮大なスケールで展示した西日本最大級の自然史・歴史博物館です。迫力ある恐竜の骨格標本が一堂に並んでおり、動く恐竜ロボットを配したジオラマでは太古の世界を体感できます。貴重な歴史資料も充

実し、人々の暮らしの変遷を知ることが出来ます。子どもから大人まで、一日中楽しみながら学べる博物館です。

Q6 年内の企画イベントの予定、また企画のPRがありましたらお知らせください。

令和6年7月13日(土)から夏の特別展「ゾクゾク発見!両生類・は虫類展」を開催しています。「きもちわるいもの」「こわいもの」と思われがちな両生類・は虫類について、実物標本や生体の展示を通してその魅力をご紹介します。体長約1.5mもある世界最大級のチュウゴクオオサンショウウオの標本や、近年ぞくぞくと見つかっている新種など、普段は見ることのできない展示が盛りだくさんです。生きたヘビやカメに触れるイベントも予定しております。

令和6年9月16日(月・祝)まで開催しておりますので、ぜひお越しください。

Q7 これからの未来を担う子どもにいのちのたび博物館での体験がどのように生かして欲しいと思われますか?

博物館は、恐竜の

骨格標本など普段はあまり見られないものだけでなく、身の回りの自然環境や自分が住んでいる町の歴史など、身近すぎて意外に見逃してしまっているものを改めてじっくり見学できたりもする場所です。

子どもたちには、博物館でたくさんのかたちを発見したり体験したりしてほしいです。そして、知見を広げることが楽しい、面白いことだと感じてもらう、これからの学習に活かすだけでなく、自分の身の回りの自然や歴史に興味関心をもって大切に思ってもらえればいいなと思います。



子どもたちには、博物館でたくさんのかたちを発見したり体験したりしてほしいです。そして、知見を広げることが楽しい、面白いことだと感じてもらう、これからの学習に活かすだけでなく、自分の身の回りの自然や歴史に興味関心をもって大切に思ってもらえればいいなと思います。

Q8 スタッフの苦労話やエピソードがあればお聞かせください。

当館で開催されている年4回の特別展はオリジナル企画です。ひとつの特別展を開催するまでに、内容の企画段階から数えると約3年かかります。

学芸員はどんな資料をどのように展示すれば展示のテーマを来場者の皆さんに理解してもらえるかを考えますし、事務方の職員はよりたくさんの方の来場者の方に興味を持ってもらえるような広報や関連イベントをいつも考えています。イベントなどを1から企画するのは難しいですが、やりがいもあります。また、2023年3月と12月にリ



リニューアルを計2回実施しました。自然史ゾーンには全長約15mの肉食恐竜スピノサウルスや全長約4mのオオナマケモノ類であるエレモテリウムといった大型の骨格標本が新たに加わりました。歴史ゾーンでは、茅葺き屋根の葺き替えを行ったり、様々な時代の史料を一堂に展示している「ヒストリーアートギャラリー」を設置するなど、職員一丸となって博物館の魅力アップに努めましたので、このリニューアルを機に、より多くの皆さんに博物館を訪れてほしいと思います。

# 研修・一期一会

第66回

## 全国私立保育研究大会 (栃木大会)

第66回全国私立保育研究大会が、栃木県宇都宮市で令和6年6月5日(水)～7日(金)の3日間、「つながろう！みんなが輝く未来へ」をテーマに開催され、参加させて頂きました。

オープニングでは、宇都宮市を中心に活躍されているエレクトーン・ピアノ奏者、倉沢大樹さんによる素晴らしい演奏を聴きました。また、江戸ワンダーランド日光江戸村の忍者劇場では、迫力満点のアクションを中心に笑いもあり、目を見張るような素晴らしい演技に魅了されました。

式典に続き、基調報告、こども家庭庁による行政説明があり、保育政策の動向と課題ということで、保育をめぐる近年の動向、保育士をめぐる課題、保育の質の向上についての話がありました。出生率は減少してい

るが、保育所の利用率は増えてきている。また、こども誰でも通園制度の話もありました。

基調講演では「こどもまんなか社会の時代の保育」みんなが輝く未来に向けて」というテーマで、大豆生田啓友氏の講演でした。魅力的な園は、子ども、職員、保護者、地域やここに集うみんながワクワクできること、子ども主体のワクワクサイクルを作ることが大切。その為に保護者への「サービス型」ではなく、保護者や地域を巻きこんだ「共生型」でなければいけないという話を聞き、共感しました。保育の質とは何か、子ども主体の保育にするためにも園内研修を通して、園での保育を振り返って話し合う大切さや、子どもの姿を語り合うことが、質の向上につながるということが、質の向上について考えていくということが改めて考えることができました。

2日目は「保育の質の向上について職員と園の成長を支えるマネジメント」個のスキルが成長するための組織の在り方とは」とをテーマとした分科会に参加しました。①北九州

# 支部近況

## 八幡西支部篇

### 出前育児教室

令和5年9月9日(土)に八幡西支部主催で出前育児教室を子ども館HOW!で行いました。コロナ禍でweb開催になった年もあった中、久しぶりの集型の通常開催となりました。

今年「こどもまんなか笑顔あふれる未来のために」というテーマのもと行われ、北九州市保育士会会長北野久美氏の講演では「子育ては笑顔とふれあい」と題し、子育ての不安を抱えた母親の心を温める講演



でした。そして、手作りおもちゃコーナーや遊びのコーナー・食育のコーナーなど様々な工夫を凝らしたコーナーが行われました。

その中で、今回注目して頂きたいのは、ステージで行われたピエロのPちゃんの手品ショーです。詳しい事はここでは話せませんが、どこかの園の保育士らしいです。卓越された手品で子どもたちの心をわしづかみしました。またどこかで会えることを楽しみにしています。

### 職員新年交流会

令和6年1月12日(金)ホテルクラウンパレス北九州で八幡西支部の新年職員交流会が行われました。コロナ禍で3年間、沈黙していましたが、各々のストレスにまみれた保育士389人が集い、語り合い、踊り、飲み明かしました。アトラクションではマリリン・アコーディオン・ピアノによる演奏、世界大会出場のチアリーディング、ビンゴマスターによるビンゴ大会、欲にまみれた福引大会が行われました。年始早々ストレスをぶちまけた保育士は皆、無事に帰路につきました。

市、三萩野保育園の保育における職場環境に関する検討、職員間における同僚性イノベーション、②沖縄県、のびる保育園、しらかわこども園の保育者が学びあう場づくりを通して保育の質の向上、こどもの「やってみよう」を支える保育を目指して、③滋賀県、グランマの家保育園の子どもの発達を捉える力を養う、ドキュメンテーションの活用を通して、と題しての発表がありました。保育の質の向上を図る為に様々な方法を用い園内研修に取り入れて話し合い、意見交換をしていく中で、方向性を決めて進めていくことの大切さや、相手を思いやる人間関係やコミュニケーションの必要性、全職員と一緒に当事者になって考え、相手を受け入れる隙間を作る大切さが保育の質の向上にもつながっていくことも再確認できました。

3日目の記念講演では「石原良純、大いに語る」家族の絆から環境問題まで」と題しての講演がありました。

講演の中で、「無駄な時間があるからこそ出合いの積み重ねがある」のことが心に残っています。出合いの積み重ねが後に残っていくということの大切さを感じ、私たち保育士

は、忙しく過ごしている毎日だからこそ、自分を大切にしている時間も必要なんだと感じました。

今回の研修で、保育の質を高めるために必要なことなど、多くのことを学ぶことができました。今後も保育の質を高めるために職員全員で園内研修を行いながら園全体で話し合い、実践しながら成長していけるように頑張りたいと思います。

千防保育所 神保陽子

### 寄付

(一社) 北九州市保育所連盟  
(公社) 北九州市私立保育連盟  
北九州市保育士会

へご寄付

認定こども園 中央しおり保育園 園長 岡本 エミ子様より春の叙勲受章にあたりご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。

### 園の紹介

認定こども園リアンたかのす保育園(令和3年度 穴生保育所より園名を変更)現在地に新築建て替えして5年。園の周囲はマンションに囲まれています。その中にも見劣りしないシックな色合いの外壁の園舎で「カフェかと思った!」とよく言われています。それぞれの子どもたちの色で園を染めていくって欲しいという願いで園内は茶系色で統一されており落ち着いた環境となっています。また、園庭には樹齢数十年と言われる大きな桜の木があり、子どもたちの成長を見守ってくれ今年も満開の花をつけてくれました。



### あゆみの森共同保育園

(令和4年度 保育所連盟加盟)河頭山のふもとにある保育園です。北九州市の認可保育園として8年目を迎えました。安心・安全な食事を基礎に『かけがえのない幼児期に人間の土台を作る保育』丈夫な身体と感性と心を育てる保育』を目指して日々励んでいます。乳幼児期は五感を豊かに育てる時期です。また、子どもたちの内なる自然、感じる力を大切に考え、土と水に十分触れて遊び、自然の中で小さな虫や動物と直に接する体験を大切にします。

